

法学部A方式Ⅱ日程・国際文化学部A方式
キャリアデザイン学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60 分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～21	日 本 史	22～37
世 界 史	38～54	地 理	56～64
数 学	66～71		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. 数学については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

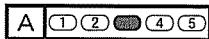
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

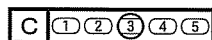
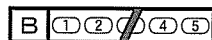
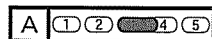
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



} 枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

6. 問題冊子のページを切り離さないこと。

(地 理)

〔I〕 気候に関するつぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。解答は解答欄に記せ。

地域によって気候の特徴はさまざまである。気温や降水量などの A はその地域の植生やそこに生活する動物に大きな影響を与える。その地域の植生とそこに生息する動物などを含めた生物のまとまりをバイオーム(生物群系)といい、世界には気候に対応してさまざまなバイオームが成立している。

バイオームは植生帯で表されることが多い。図1は年平均気温・年降水量とバイオームの関係を表した図である。各バイオームの境界は明確ではなく、連続的に変化している。

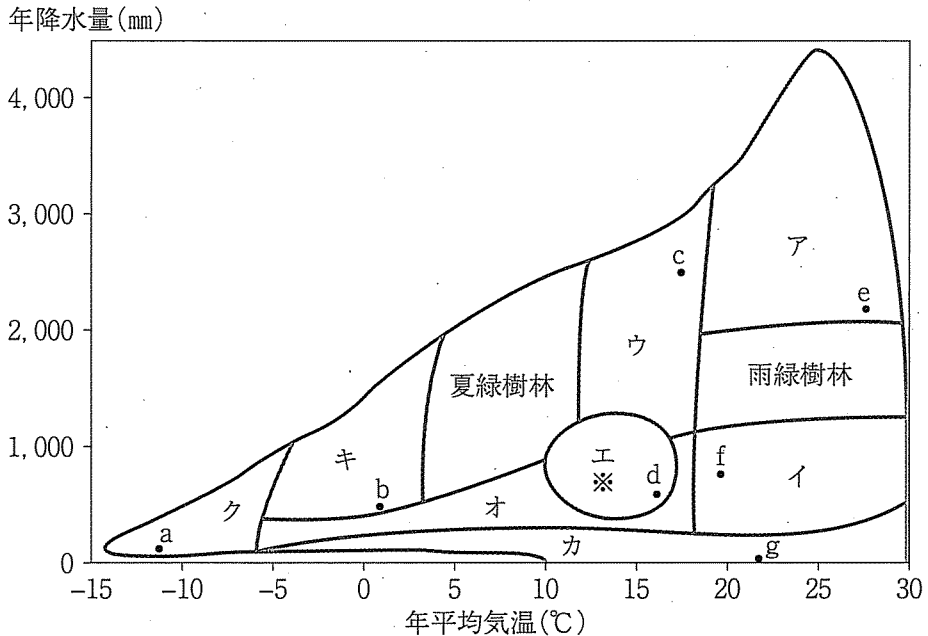


図1 年平均気温・年降水量とバイオームの関係

※夏乾燥、冬多雨の場合

資料：『データブック オブ・ザ・ワールド 2019年版』、『理科年表2019』より作成

日本では、どこでも十分な降水量があるため、湿地、高山、砂浜などの場所を除けば、気候的に森林が成立する。そのため、各地には気温に応じた森林のバイオームが見られる。気温の分布は に呼応して帯状になるため、バイオームも同じように帯状に近い形で水平に分布している。

また、高山では標高に応じてバイオームが垂直に分布している。図2は本州中部における植生の垂直分布を表した模式図である。標高2,500m付近は と呼ばれ、これより標高が高い場所では と により、森林は見られないが、夏にはお花畑が見られる。場所によっては、降雪や乾燥によることもある。

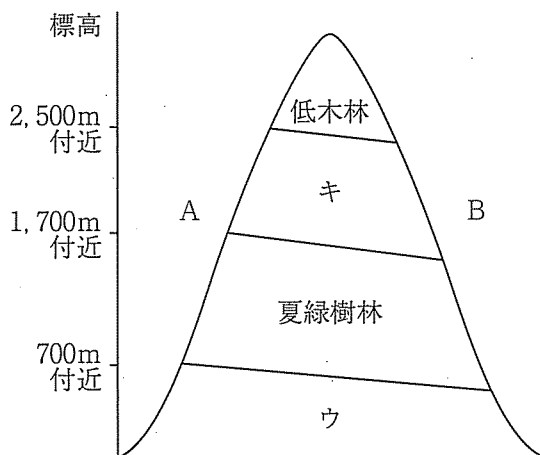


図2 本州中部における植生の垂直分布(南北断面)

問1 文中の空欄 ~ に適する語句を答えよ。 と については順序を問わない。

問2 図1のア〜クにあてはまる植生帯を次の中から選び、解答欄に番号で記入せよ。

- | | | |
|--------|----------------|--------|
| ① 硬葉樹林 | ② 砂漠 | ③ サバナ |
| ④ 照葉樹林 | ⑤ 針葉樹林 | ⑥ ステップ |
| ⑦ ツンドラ | ⑧ 熱帯多雨林・亜熱帯多雨林 | |

地理

問3 図1のa～gにあてはまる都市を次の中から選び、解答欄に番号で記入せよ。

- ① イルケーツク ② カイロ ③ シンガポール
- ④ ナイロビ ⑤ バルセロナ ⑥ バロー
- ⑦ 宮崎

問4 各バイオーム(砂漠・サバナ・照葉樹林・針葉樹林・ツンドラ)に生息する動物を次の中から選び、解答欄に番号で記入せよ。

- ① イタチ・タヌキ ② シマウマ・チーター
- ③ ジャコウウシ・トナカイ ④ トビネズミ・ヒトコブラクダ
- ⑤ ヒグマ・ヘラジカ

問5 図2の南側斜面はAとBのどちらか、記号で答えよ。また、そのように判断した理由を述べよ。なお、解答欄内であれば字数は問わない。

〔Ⅱ〕 日本の繊維工業に関するつぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。解答は解答欄に記せ。

第二次世界大戦前、輸入綿花を加工・製造した綿織物や、農村の a 業を基盤とするアメリカ合衆国の絹織物産業向けの生糸生産によって日本の繊維工業は発展した。戦後間もなく日本の繊維工業は綿織物輸出で再び世界一になったが、その後の重化学工業化に伴って繊維工業の地位は急速に低下した。

繊維工業は紡績、織物、縫製の3部門からなるが、日本のメーカーは製造拠点を中国や東南アジアに移し、製品はそれら移転先から輸入するようになり、結果的に国内の産業の b が進んだ。また近年では、生地を輸出し現地で縫製し逆輸入することが増えている。それは繊維工業の縫製工程が本質的に抱える構造的問題に起因している。服飾(別名 c)⁽¹⁾産業はその構造的問題を典型的に示す部門である。

その過程では、かつての主要輸出先であったアジア諸国で繊維製品の自給化が進んだほか、綿製品と合成繊維製品をめぐってそれぞれ日米貿易摩擦が発生し、いずれも日本側が輸出の自主規制を行ったことなどによって生産は減少していった。また、1972年の変動相場制への移行、1970年代の二度の d によって合成繊維生産も構造不況に陥った。さらに、1985年以降の日本経済の変化によって製造拠点の移転を余儀なくされ、産業の b⁽²⁾ が進んだのである。

日本のメーカーはこれまで、大企業を中心にして国内生産・海外輸出型であったものから海外生産比率を高めていったが、繊維工業も同様の傾向を示してきた。しかし近年では国内メーカーは製造拠点を中国や東南アジアから他の地域に拡大したり、中国などから生産拠点を再び日本国内に移す動きもあるが、日本国内の問題からそれも容易ではない。⁽³⁾⁽⁴⁾

とはいえ繊維工業が重要な役割を果たす国は未だ多い。原料として化学繊維が主流になり、2016年の化学繊維需要は74%であるが、天然繊維需要も未だ26%である。天然繊維による繊維工業が残存するのは多くの場合、発展途上国である。天然繊維の原料としては、綿花、生糸、麻、羊毛などが挙げられるが、天然繊維の中で需要が大きいのは綿花である。

(『日本国勢図会2003/04』『同2018/19』の文章の一部を改変)

地理

問1 文中の空欄 a ～ d に適切な語句を答えよ。

問2 下線部(1)に関連して、縫製工程が抱える構造的課題とは何かを20字以内で答えよ。

問3 下線部(2)に関連して、1985年以降、日本で生じた経済状況の変化とは何かを20字以内で答えよ。

問4 下線部(3)に関連して、生産拠点を再び日本国内に移そうとする理由は何かを20字以内で説明せよ。

問5 下線部(4)に関連して、生産拠点を日本に移そうとしても、それが容易に進まない問題点について20字以内で説明せよ。

問6 つぎの表1は世界の天然繊維の国別生産量を示したものである。A～Cの国名を答えよ。同一の記号には同一の国名が入る。

表1 天然繊維の国別生産量(2014年) (単位：千トン)

綿花		羊毛		生糸	
国名	生産量	国名	生産量	国名	生産量
A	6,188	B	283	B	126.0
B	6,178	C	216	A	23.7
アメリカ合衆国	3,593	ニュージーランド	99	ベトナム	6.8
パキスタン	2,374	イギリス	41	トルクメニスタン	4.5
ブラジル	1,412	イラン	37	ルーマニア	2.1
世界計	26,157	世界計	1,306	世界計	168.3

資料：『日本国勢図会2018/19』

注)羊毛は2013年の数値である。

問7 つぎの表2は2017年における、各国からの日本の輸入額に占める品目別比率の中で、衣類輸入額比率が上位5位までに入るD～Gの4カ国を示したものである。D～Gの国名を以下の国名群から選び①～④の番号で答えよ。

[国名群]

- | | |
|----------|--------|
| ① 中国 | ② イタリア |
| ③ インドネシア | ④ ベトナム |

表2 各国からの輸入額に占める品目別比率(2017年) (単位：%)

D国		E国		F国		G国	
品目	輸入額比率	品目	輸入額比率	品目	輸入額比率	品目	輸入額比率
機械類	46.6	石炭	14.8	機械類	30.4	たばこ	15.0
衣類	10.5	液化天然ガス	14.2	衣類	18.3	機械類	14.6
金属製品	3.3	機械類	10.8	魚介類	5.6	バッグ類	9.6
がん具	2.4	衣類	4.9	はきもの	5.1	医薬品	9.4
家具	2.4	銅鉱	4.9	家具	4.0	衣類	8.3
プラスチック製品	2.0	天然ゴム	4.2	バッグ類	3.0	自動車	6.9

資料：『日本国勢図会2018/19』

地理

〔Ⅲ〕 アフリカの地誌に関するつぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。解答は解答欄に記せ。

大航海時代以降、ヨーロッパ諸国はアフリカとの交易を拡大させた。その後、熱帯産品と鉱山資源の供給地としての植民地化が進んだ。ヨーロッパ諸国による植民地分割の結果、民族や言語などとは無関係に宗主国の都合で人為的に国境が引かれたため、民族間の対立や紛争を引き起こす原因となった。第二次大戦終了後、^(a)宗主国で教育を受けたエリート層を中心に独立運動が起こり、1960年は17カ国が独立し、の年と呼ばれた。2018年現在の独立国は54カ国になっている。

アフリカの農業は、自給作物と商品作物の栽培にそれぞれ地域の特徴が見られる。北アフリカでは自給用のなつめやし・小麦・野菜などが栽培され、熱帯地域ではキャッサバなどのいも類、乾燥帯地域ではとうもろこし・ひえ・あわなどの穀類が栽培されている。ギニア湾岸のおよびガーナでは、世界生産の約5割を占めるカカオの栽培が盛んである。熱帯の高地であるでは、標高1,500~2,000mの土地にイギリス人が入植し、コーヒー豆や茶などの農業が盛んになった。近年では花卉の産出も多い。

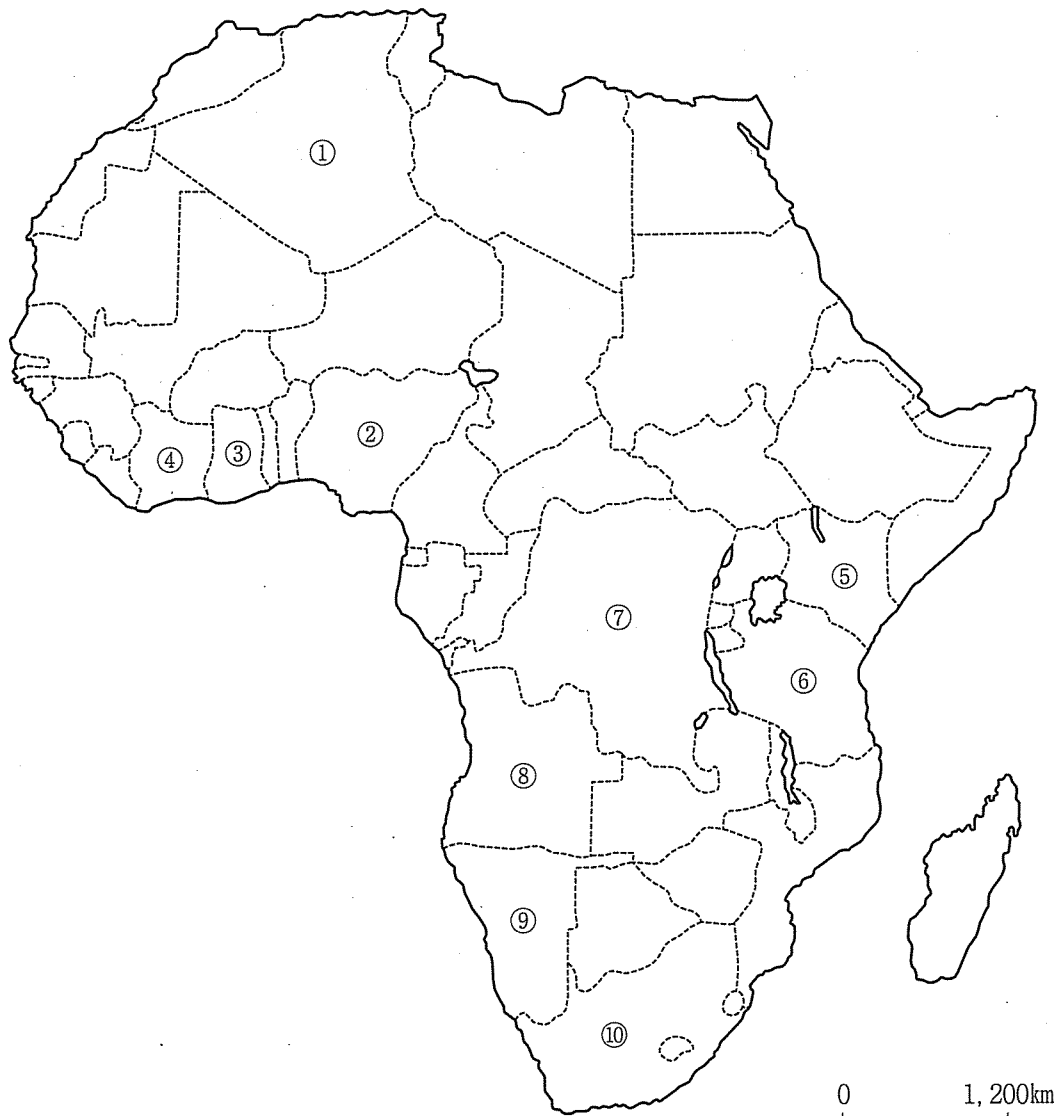
アフリカは資源に恵まれた国が多く、北アフリカは西アジアと並ぶ産油地帯となっており、アルジェリアやリビアのようにOPECに加盟している国もある。サハラ以南に位置するはアフリカ最大^(b)の産油国である。は第2の産油国であり、半分近くをに輸出している。は、石炭や鉄鉱石のほか、金・クロム・プラチナなども産出し、鉱産資源に恵まれている。ボツワナ・コンゴ民主共和国・ではダイヤモンドも豊富である。

アフリカの国々は、かつての宗主国であるヨーロッパ諸国との関係を重視していた。しかし、近年、が急速にアフリカとの関係を強め、対アフリカ貿易額でヨーロッパ諸国を上回った。は、ザンビアとを結ぶタンザン鉄道ややエチオピアなどの鉄道建設支援で築いた関係を深めることで、各国から銅やレアメタルなどの鉱山資源を確保している。この背景には、の「一带一路」計画があり、中央アジア、中東、ヨーロッパ諸国、そしてアフリカにまで影響を及ぼしている。

問1 空欄 (1) ~ (3) にあてはまる適切な語句を解答欄に記せ。

問2 空欄 A ~ F にあてはまるアフリカの国名を解答欄に記せ。

問3 問2の国名 A ~ F の位置を、下の地図の①~⑩から一つずつ選び、その番号を解答欄に記せ。



地理

問4 下線部(a)について、1956年にイギリスから独立した後、北部と南部の対立から内戦になった国名を解答欄に記せ。2005年に和平合意し、北部と南部の地域がそれぞれ独立したが、北部と南部では信仰する宗教が異なる。北部と南部で多数を占める宗教名もそれぞれ解答欄に記せ。

問5 下線部(b)について、以下の表は OPEC 諸国から各国への原油輸出量を示したものである(2017年)。表中の空欄にはアルジェリア、イラク、サウジアラビア、ベネズエラの国名が入る。アルジェリアに当てはまる国名の番号を、①～④の中から選び、解答欄に記せ。

表 OPEC 諸国からの原油輸出量(万トン)

原油輸入国 原油輸出国	アメリカ	日本	中国	ドイツ	韓国	イタリア	フランス	イギリス
アラブ首長国	117	3,770	1,016	—	1,217	8	28	—
①	411	2	27	228	84	105	449	397
②	3,549	270	3,682	307	1,784	870	40	—
イラン	—	871	3,115	35	1,807	941	678	—
③	5,572	6,343	5,218	97	4,306	608	654	188
④	3,620	31	2,176	66	—	19	—	18
リビア	365	—	322	665	134	524	358	271

資料：『データブック オブ・ザ・ワールド 2019年版』より作成

(白 紙)